

ピカイチ先生の
生活経営セミナー

2016年01月

制御システムから学ぶ安全
(① 集中制御と多重化)

ネクストライフ・コンサルティング

〒975-0038

福島県南相馬市原町区日の出町167-3

info@next-life-consult.com



ピカイチ先生

ピカイチ先生

検索

集中システムと分散システム

	集中システム	分散システム
国 家	独裁主義	民主主義
通 貨	法定通貨	地域通貨

集中システムの事例（電力システム）

これほど重要な使命を持っている中央給電指令所だが、実は、多くの作業は自動制御となっている。電力需要の変化、系統周波数の変動などに合わせて、発電の出力は、自動的に調節されるのだ。だから、ここには昼夜3交替で人が詰めているものの、その数は4人と少ない。コンピュータが、その複雑な電力システムを、合理的、かつ経済的に運用していく。

人間は、たいていそれを監視しているだけだが、ときには的確な判断を下さなければならないときもある。落雷などの気象情報をつかむのはコンピュータでも、不測の事態や、万が一の故障に備えるのは人間の役目だ。

「ドイツの脱原発がよくわかる本」(川口マーン恵美)より

リスクと不確実性

リスクというのは、だいたい起こる確率が分かっているということです。いわゆる通常の自動車保険や災害保険などのベースになっている理論で、統計的な認識のことです。たとえば、40代ぐらいの人が2~3年、車に乗って起こる自動車事故の発生率とか、そういうものはだいたい分かっていると。

ところが、そういうものではなくて、不確実性というものがあります。これはフランク・ナイト(20世紀前半に活躍したアメリカの経済学者)などの理論で、彼のいう不確実性というのはリスクと全然違って、確率分布自体も分からない。つまり、本当に起こるのか起こらないのか…。我々人類にはまったく認知し得ないようなファクターがあるということです。

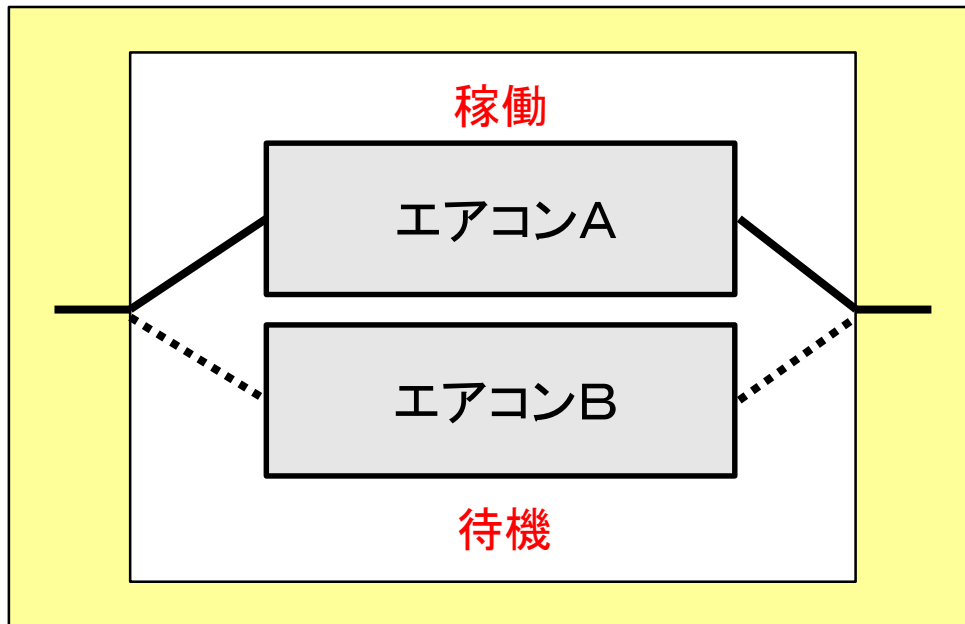
「震災恐慌！ 経済無策で恐慌が来る」(田中秀臣・上念司著)より

多重化による安全性



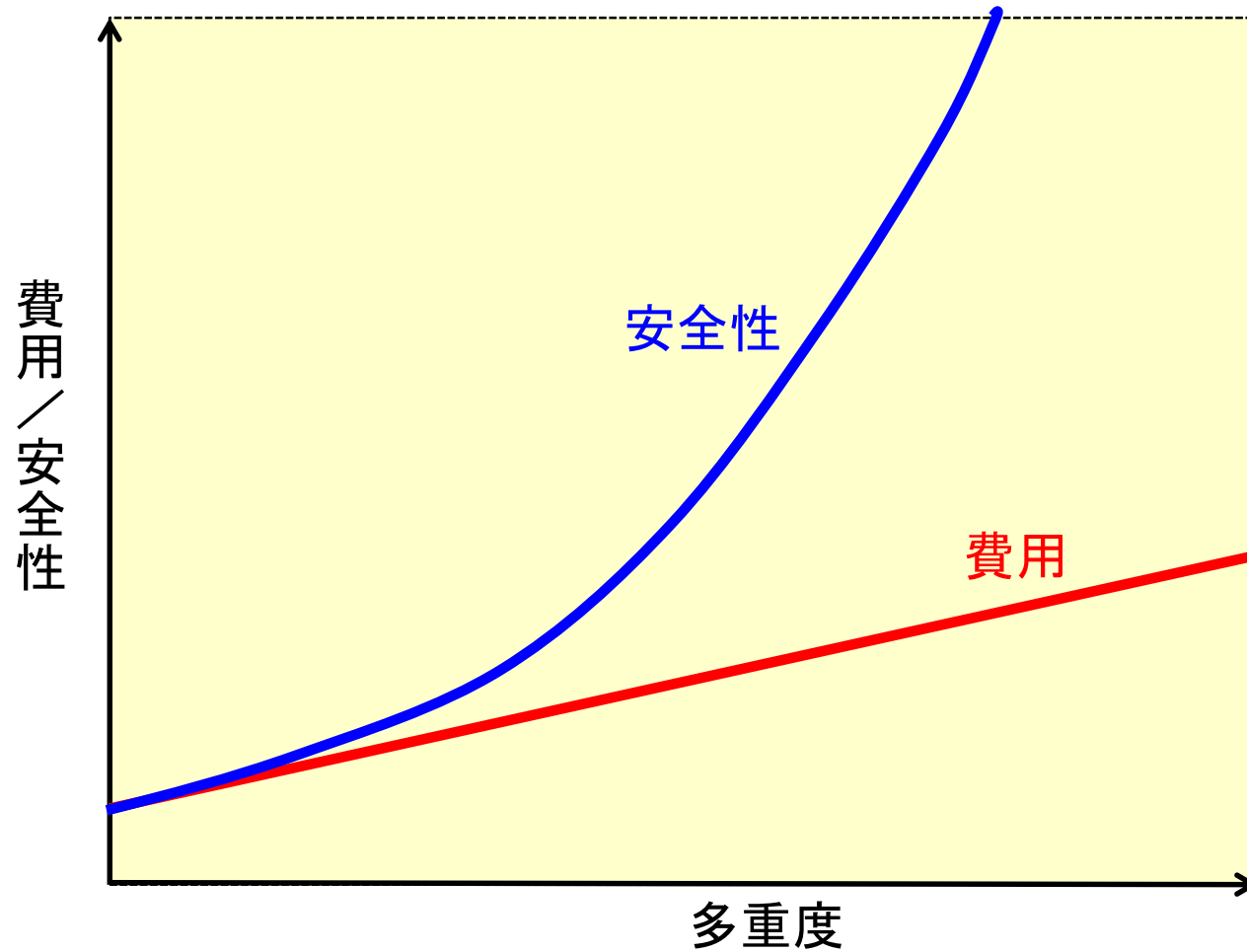
故障率 = 1回/30日

多重化



故障率
= (1回/30日) × (1回/30日)
= 1回/900日

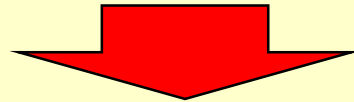
多重化による費用対効果



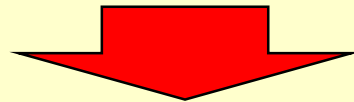
独裁政治システムと多重化

あなたは、独裁者です。
国民は、あなたの奴隷です。
あなたの使命は、奴隷を最大限に働かすこと。
あなたは、どうしますか？

国民は、国家システムの部品だ。
部品は壊れたら、交換すればいい。



交換するには、規格の統一がいる。
国民を同一規格に育てよう。



効率的に、国民を同一規格に育てるには？
教育システムを統一規格化にすればいい。

他人から与えられて喜ぶのは「奴隷マインド」の証拠（1）

あなたは、どんなことに嬉しさを感じるか、自分に問いかけてみてほしい。「同期よりも出世したら嬉しい」とか「ボーナスが増えたら嬉しい」と思っているのだとしたら、「他人から与えてもらうことが嬉しい」と考えていることになる。出世というのは、社長や人事部によって与えられるものだ。あくまでも他人任せ。社長の意向次第、人事部次第だ。

サラリーマンは、ボーナス日には「嬉しい」と思うだろうが、ボーナスも他人から与えてもらうものだ。

逆に考えてみてほしい。もし、あなたがボーナスを与える側だったら、どうか。多額のお金が一挙に必要なボーナス日は、きっと大変なことばかりで、全然嬉しくない日になるだろう。そんなボーナスを「与えてもらって、嬉しい」と思うということは、つまり、飼い慣らされているということなのだ。

まず、そのように、もらうことばかり喜びにするような「奴隷マインド」のメンタリティから問い直さないといけなない。

「40歳から「差がつく」生き方」(苔米地英人著)より

他人から与えられて喜ぶのは「奴隷マインド」の証拠（2）

こうしたメンタリティはけっこう根が深く、幼稚園に入って「はい、みんな一列に並んで」「前へならえ」「右向け右」というところから始まっている。そもそも、こんなことを子供に教育するのは間違っている。「前の人にならっていいかどうか、よく見極めてから考えましょう。良いと思ったら前へならいましょう」と教えなければいけない。「右向け右、で右を向きなさい」ではなく「右向け右、と言われたら、まず右と左の両方をよく見て、安全だと思ったら右を向きましょう」と教えるべきだ。

自分で判断して「正しい」と思ったことをするように教えるのが教育である。

「右向け右」と言われた瞬間に右を向く教育をしていたら、子供の中に「奴隷マインド」が育ってしまう。子供たちを「奴隷」にしてもらっては困る。学校で「右向け右」をやっていたら、強硬に抗議するのが筋だと思う。小さいころからの学校教育は、「奴隷マインド」を持った人間になるか、自分で考えて行動できる「民主主義」の人間になるか、ということにも影響してくる。

「40歳から「差がつく」生き方」(苔米地英人著)より